

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第494号 平成26年11月・12月



『富士とコスモス』 真鍋 勉

目 次

	頁		頁
1) 感染症だより	西多摩保健所 … 2	6) 平成26年度西多摩地域脳卒中 医療連携症例検討会プログラム	小机敏昭 … 13
2) 西多摩医師会主催市民健康講座	学術部 … 4	7) 専門医に学ぶ	塩入瑞恵 … 14
3) 広報だより 夏の読書月間	古川朋靖 … 6	8) 理事会報告	広報部 … 17
4) 連載企画 イラン最高峰・ダマバンド山(5671m) 登頂	神尾重則 … 10	9) 学術講演会予定	学術部 … 20
5) 第24回西多摩消化器疾患 カンファレンス抄録	学術部 … 12	10) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 21
		11) 表紙のことば	真鍋 勉 … 24
		12) お知らせ	事務局 … 25
		13) あとがき	渡邊哲哉 … 25
		14) 医師会館休館のお知らせ	事務局 … 26

感染症だより

〈全数報告〉

第33週(8.11-8.17)から第36週(9.1-9.7)の間に診断された感染症について、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 9件 (肺結核2件、無症状病原体保有者7件)。

年齢は 20代2件、30代1件、40代1件、50代2件、60代1件、70代1件、80代1件。

性別は 男性4件、女性5件)

(四類感染症) レジオネラ症 1件 (70代男性)

〈管内の定点からの報告〉

	33週 8.11～8.17	34週 8.18～8.24	35週 8.25～8.31	36週 9.1～9.7
RSウイルス感染症				
インフルエンザ				
咽頭結膜熱			1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	3	3
感染性胃腸炎	3	15	23	15
水痘	4	3	5	
手足口病	1	3	3	6
伝染性紅斑	2	1		
突発性発しん	1	2	2	
百日咳				
ヘルパンギーナ	2	3	7	8
流行性耳下腺炎	1	2	1	2
不明発疹症				
MCLS				
急性出血性結膜炎				
流行性角結膜炎				
合 計	14	30	45	34

基幹定点報告対象疾病

報告なし

〈コメント〉

① 感染症法の届出基準等が変更され、MERS、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘の入院例なども届出対象になりました。

感染症法に基づき、一～四類、新型インフルエンザ等の感染症を医師が診断した場合は「直ちに」、また五類のうち全数把握対象疾患は「7日以内」に、保健所に届出をお願いしています。平成26年度になって、以下のような届出基準等の変更がありました。なお、届出基準や発生届の様式は、東京都健康安全研究センターのホームページなどに最新のものが掲載されておりますので、ご活用ください。

〈5/12からの変更〉風しんの発生届は可能な限り24時間以内に報告をお願いします。ジフテリア、侵襲性インフルエンザ感染症、先天性風しん症候群、梅毒、ロタウイルスによる感染性胃腸炎、マイコプラズマ肺炎について、基準や検査方法等に一部変更があります。

〈7/26からの変更〉中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。）が指定感染症に追加されました（指定期間は1年間）。

〈9/19からの変更〉カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘（入院例に限る。）、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシнетバクター感染症が、五類感染症（全数把握）に追加されました。

② 潜在性結核感染症（LTBI）の治療が積極的に進められてきています。

今回の報告では結核9件のうち7件が無症状病原体保有者でした。無症状病原体保有者は、結核を発病してはいないがツベルクリン反応やインターフェロンγ遊離試験（IGRA：クオンティフェロン®TB ゴールドやTスポット®）陽性などにより結核に感染していると診断されたものですが、発病予防のために結核医療を必要とする場合のみ、潜在性結核感染症（LTBI）として結核の発生届が出されます。

LTBI治療は発病を防ぐための予防内服として、以前は結核患者の接触者健診により主に若年の感染者に行われていましたが、現在は年齢を問わず発病の危険性が高い場合に行われます。近年、感染の診断の精度が高いIGRAの普及に伴い、無症状病原体保有者と診断された場合、患者との接触がはっきりしなくても、HIV感染や血液透析など免疫不全を伴う病態や、生物学的製材・副腎皮質ステロイド剤などの免疫抑制作用のある薬剤使用などの際にも積極的にLTBI治療が行われています。なお、LTBI治療は公費負担の対象となります。

<全数報告>

第37週（9.8-9.14）から第41週（10.6-10.12）の間に診断された感染症について、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 3件（肺結核 2件、肺結核および結核性胸膜炎 1件）

年齢は 20代 2件、80代 1件。性別は 男性 2件、女性 1件）

(三類感染症) 細菌性赤痢 1件（30代男性）

(四類感染症) デング熱 1件（30代男性）

(五類感染症) アメーバ赤痢 1件（60代女性）、水痘（入院例） 1件（40代男性）

<管内の定点からの報告>

	37週 9.8～9.14	38週 9.15～9.21	39週 9.22～9.28	40週 9.29～10.5	41週 10.6～10.12
RSウイルス感染症				2	5
インフルエンザ	2				1
咽頭結膜熱	3	4	2	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	8	4	2	8
感染性胃腸炎	21	23	16	19	19
水痘	4	3	2	8	3
手足口病	1	3	6	2	1
伝染性紅斑			1	2	
突発性発しん	7		1	1	1
百日咳					
ヘルパンギーナ	12	4	2	4	1
流行性耳下腺炎	1	1	2	6	4
不明癡疹症	1				
MCLS					
急性出血性結膜炎					
流行性角結膜炎			1	1	
合 計	56	46	37	48	43

基幹定点報告対象疾病

マイコプラズマ肺炎 1件（10～14歳男性）、無菌性髄膜炎 1件（5～9歳男性）

<コメント>

① 代々木公園近辺を主な感染場所としてデング熱の国内感染の流行がありました。

デング熱は主にネッタイシマカ（日本には常在しない）が媒介する4類感染症です。日本は沖縄以外は温帯地域でありデング熱の流行地域ではありませんが、日本のほとんどの地域でみられるヒトスジシマカもデング熱を媒介できるため、第二次世界大戦中1942年～44年には長崎、神戸、大阪などで大流行し、20万人以上の患者が発生しました。それ以降は沖縄を除き国内での感染はありませんでしたが、海外で感染して国内で発症する例は継続的にあり、ここ数年は年間200例を超えていました。この夏は約60年ぶりに国内感染事例が発生し、40週までに全国で306件のデング熱の報告があり、そのうち156件が国内感染事例でした。その8割の128件が代々木公園およびその周辺で感染したと推定されており、西多摩保健所管内の医療機関からも1件報告がありました。

蚊の駆除や対策が行われ、またヒトスジシマカの活動期（5月中旬～10月下旬）が終わり、今回の流行はほぼ終息しましたが、来年度はまた国内感染例の発生が予想されます。今回の流行を受けて、都では「東京都蚊媒介感染症対策会議」を開催し、医療・検査体制、疾病サーベイランス、保健所の対応や自治体間の役割分担・連携、情報提供・広報、蚊の対策などの課題について検討しています。国においても「蚊媒介性感染症に関する特定感染症予防指針」を策定する方針です。

② 西多摩保健所では健康危機管理対策研修会として、新型インフルエンザ対策の個人防護服（PPE）着脱訓練を行いました。

病院の医療従事者を対象に防護服の着脱訓練を行いましたが、実際にやってみると感染を広めずに脱ぐことはなかなか難しく、日頃から訓練を行うことが大切と感じました。エボラ出血熱の流行もあり、状況に応じた感染予防対策が重要です。

現在「新型インフルエンザ」はまだ発生していませんが、新型インフルエンザに変異する可能性のある鳥インフルエンザについては、H5N1は2003年以降の発症者668人（うち死亡393人）、H7N9は2013年以降の発症者394人（うち死亡118人）とWHOが公表しています。ヒト-ヒト感染が起きやすい新型インフルエンザに変異した場合、大流行を起こすことが予想され、医療機関での対策が重要となります。厚生労働省のホームページに「新型インフルエンザ等発生に備えて医療機関にもとめられること」という動画やリーフレット、その他各種資料が掲載されていますので、是非ご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakku-kansenshou01/keihatu.html>

文責：東京都西多摩保健所保健対策課

西多摩医師会主催市民健康講座について



H26年10月18日（土）西多摩医師会主催の市民健康講座を羽村市コミュニティセンターにて開催し青梅市立総合病院副院長 大友建一郎先生にご講演をして頂きました。

タイトルは「脈の異常に気付いたら…～命に関わる危険な不整脈とは～」。

当日は来場予想人数を大きく上回る120人の参加者が来場されました。

（羽村市54人、青梅市35人、あきる野市13人、福生市2人、瑞穂町13人、その他3人）

市民の皆様の関心の高さが伺える講座となりました。

詳細につきましては土田学術委員より報告いたします。

（学術部担当：小林 康弘）

西多摩医師会市民健康講座



10月18日土曜日に羽村市コミュニティセンターで市民健康講座が開催され、「不整脈」をテーマに青梅市立総合病院副院長の大友建一郎先生にご講演をして頂きました。当日は好天に恵まれ各地でさまざまなスポーツイベントも行われる中、120名の参加があり関心の高さが伺えました。日常診療において過度に不整脈を心配される患者さんもおられるかと思われますが、大友先生には「正しく怖がることの大切さ」を述べて頂きました。

講演では不整脈の定義・心臓の解剖などの話から始まり、不整脈を期外収縮・徐脈・頻脈とに分けて以下の内容の話をされました。

① 期外収縮

症状として一瞬の動悸や胸の痛みなどがあるが、ずっと続かないことが特徴で。無症状のことも多い。基本的に治療しないで経過をみることが多い。

② 徐脈（脈拍数<50/分）

スポーツ心臓のように安静時の脈拍が遅いだけで自覚症状のない洞性徐脈と、心臓の収縮を伝える電気系統の異常による洞不全症候群・房室ブロックとに分けられ、失神や息切れなどの症状を伴う後者に瀕いては心臓ペースメーカーの植込みが基本の治療となる。

③ 頻脈（脈拍数>100/分）

洞性頻脈：ただ脈の回数が多いもので、動悸の症状はあってもそれが消失するタイミングの分からないのが特徴。心臓自体が悪い訳ではなく、自律神経を興奮させている原因に対する治療が行われる。

WPW症候群：副伝導路による不整脈で普段は症状を伴わないが、発作性上室性頻拍を生じて動悸や冷や汗を来すときにはカテーテルアブレーション治療が行われることがある。

心室頻拍・心室細動：心室から異常な電気信号が起こり続いている状態で、背景に心筋梗塞や心臓弁膜症、心筋症などの心臓の病気がことが多い。症状として動悸や冷や汗が急に



始まり急に止まる、血圧低下による失神などがあり、心肺蘇生や AED などが必要となる。

心房細動：心房が小刻みに震えている状態で、その電気信号がバラバラで心室に伝わるので脈拍もバラバラになる。加齢に伴い発症率が高くなるので超高齢社会に反映して毎年増加傾向にある。動悸や息切れ、疲労感などの自覚症状を起こすが、心原性脳塞栓症の原因となるため抗凝固薬（アスピリンではだめ）による血栓予防が大事となる。治療としてカテーテルアブレーションも行われることもある。

④ 怖い不整脈の症状

目の前が暗くなったり失神する（脈が遅い、もしくは脈が速いために心臓の働きが悪い）息切れがする（運動しても脈が速くならない、もしくは脈の速い状態が続いて心臓の働きが弱っている）

急に起こって急に止まる動悸、脈拍数が 150/ 分以上のもの（発作性上室性頻拍・心室頻拍・心室細動など）

症状がなくても脈の乱れが続く場合は心房細動を疑って主治医と相談を

講演の後に行われた質問コーナーでは、不整脈（期外収縮、房室ブロック、心房細動治療後）があるが治療をしなくても大丈夫かという質問がありました。講演内容通りで不整脈の種類と自覚症状により治療が行われるとの回答でした。自覚症状があつても病院で検査すると心配ないと言われてしまうがとの質問に対しては、ホルター心電図を繰り返しつけてみないと分からぬこともあるが、自分で脈をとり脈拍数や、脈が規則正しかどうか、脈の止まったのが分かつたかどうかチェックするのも有用であるとのことでした。また心房細動がある際の普段の生活として飲酒や筋肉トレーニングの可否や、新規経口抗凝固薬（NOAC）に関する質問で人工弁置換術後はワルファリンを用いる方が無難であるなどの話もありました。

不整脈は比較的ありふれた疾患ではあるものの、動悸などの自覚症状を伴うことがあり、また心臓が関わるものなので治療を受けるべきかどうか気にされている方は少なくないと思われます。一般の人の中には不整脈全体を 1 つの疾患として捉えている方もおられます。大友先生も述べられたように不整脈にはいくつかの種類がありそれぞれ対処の仕方が異なるため、治療の必要性を判断するにはまで第一に不整脈の種類を知ることが大事となってきます。今回の講演は内容がいくらか専門的な印象も受けましたが、不整脈に対処するにはまずは自分がどんな不整脈なのかを知ってもらうことが大切であり、今後もこのような啓蒙活動は必要であると思われました。

（文責：土田大介）

広報だより



夏の読書月間

羽村市 永仁醫院 古川 朋靖

私は、羽村市にて小さい耳鼻咽喉科医院を営んでおります。耳鼻咽喉科という科は、季節労働者のようなものです。秋から冬、寒暖の差が激しくなると子供たちは湧垂れになり中耳炎が増えます。年が明けて春になれば、花粉が飛び大人も子供もそして自分も花粉症になります。そして春から夏は学校健診の子供たちがやってきます。各季節多い少ないはありますが、右往左往しています。そして最低気温が20度を超える頃（これはあくまでも自分の感覚ですが）、パッタリと皆さんの足は耳鼻咽喉科へは向かなくなります。7月位から9月位が、この時期に当たります。ポツポツと来てくださる患者さんとのんびり会話をしながら診察が出来るので良いのですが…、かなりの時間退屈もあります。最初のうちはこの退屈に幸せを感じているのですが、数日もすると慣れは怖いもので、ハッキリ言つて飽きてきます。そんなこともあります、毎年この時期は自己自身読書月間として、患者さんを待つ間、様々な本を読むようにしています。今回の広報だよりでは、今年の夏、自分が読んだ本の紹介と、おこがましいのですが、書評もどき（というよりは思い入れみたいなもの）を綴ってみたいと思います。

今年の夏もそこそこ本を読んだのですが、そのうちの10冊+1冊を紹介したいと思います。自分の読書にはハッキリとした傾向がありますので、いくつかのグループに分けて紹介していきます。この順番は、決しておすすめ順ではありません。

一番目には、村上春樹が好きな点あります。村上春樹の本は学生の頃から読んではいたのですが、本格的に読み出したのは大学卒業後です。初期の作品である「風の歌を聴け」「1973年のピンボール」「羊をめぐる冒険」に、えらく衝撃を覚えたのを覚えています。かなり新鮮な感覚というか、読者と同じ目線で社会をとらえていながら、ちょっとあり得ないような展開が進んでいく…、その物語性に

圧倒されました。よく言われることですが、「自分自身の事に非常に似ている」という思いが残り、物語にのめり込んでいく感覚です。後日、「夢を見るために毎朝僕は日覚めるのです」（2010文藝春秋）というインタビュー集を読んで、その物語性の原点を見た気が致しました。

今年は、「女のいない男たち」（2014文藝春秋）「恋しくて」（2013中央公論社）の2冊を読みました。前者は全編村上春樹の短編小説集で、6編の恋愛小説が掲載されておりますが、いずれもひと癖もふた癖もあるので、心象風景を細かに描いております。題名そのもので、女がい



ないか別れてしまった男をテーマにしております。個人的には、「木野」という短編にとても惹かれました。現実と夢うつつが混じり合ったような、非日常的な空間に誘い込まれるような感覚でしょうか。後者は10編の短編小説集で、村上春樹自身の短編小説も掲載されておりますが、残りの9編は村上春樹自身がセレクトした海外の小説家の短編です。ご自身で翻訳をされているようです。様々なタイプの恋愛小説が含まれており、何とも甘くほほえましいものからちょっと大人の辛口のものまで。自分としては「モントリオールの恋人」のような、ちょっとおしゃれな、でも少し切ない、辛口な方が良いかな…、でも実際に自分の身近に起きることは100%あり得ないので、妄想するのみですね。これらの本は、ちょっと大人のおしゃれな会話を楽しみたい方におすすめしたいと思います。

二番目には、探偵小説をあげてみたいと思います。高校生の頃は、レイモンド・チャンドラーの探偵フィリップ・マーロウに憧れており、真実を見いだすためには自分が損をしても、やせ我慢をして、平氣でいられるような強い男の子になりたいと思っていました。当然ながら女の子と遊ぶなんて邪道だ…、と言うような少し偏屈な野郎でありました。本当は、女の子と会話をするのが苦手なだけ

だったんですが。今年は、これまでの双葉十三郎さん、清水俊二さんに変わって、村上春樹が翻訳をしたところで、「大いなる眠り」(2012早川書房)「さよなら、愛しい人」(2009早川書房)の2冊を読み返してみました。何も言わせません。(書評にならないのですが)高校生の頃の自分の姿が思い出され、ちょっと恥ずかしくなりました。小説自体は完成されていて、村上春樹訳になってかなり細かい部分の描写が追加されているような気が致しました。やはりフィリップ・マーロウの活躍は痛快です。探偵小説にご縁のない方も一度読んでみると、その物語性に引き込まれていくのではないかと思いますし、1940年代のアメリカにトリップ出来るとおもいます。

三番目には、夢枕獏の「陰陽師」シリーズをあげてみたいと思います。平安の都(京都)を舞台に、安倍晴明と源博雅の織りなす怪異譚であります。しかしながら単なる怪異譚ではなく、その裏に人の憎しみや悲しみがあり、果たせぬ思いの詰まった物語で、日本人の心根の深さを実感できる短編集です。今年は、「陰陽師 醍醐の巻」(2011文春文庫)「陰陽師 天鼓の巻」(2012文春文庫)の2冊を読みましたが、どちらも安心して読めるものと思います。和の心を堪能したい方に、おすすめしたいと思います。



四番目には、全くジャンルの異なる2冊の小説を紹介したいと思います。ジャンルは異なりますが、どちらも女子高生が主人公であり、小説の書かれた時代を勘案しますとかなり尖った女子高生（今ではありがちかもしれません）の姿が描かれております。一つは、渡辺淳一の「阿寒に果つ」（1973）です。私自身が医学部を目指そうと考えて居た頃、渡辺淳一の小説は、ほとんどのものを読んでおりました。

初期の作品には、「和田心臓移植事件」を中心に医師の経験を元に描かれた小説が多くかった気が致します。その中で「阿寒に果つ」は、一人の女子高生天才画家の男性遍歴とその死（自殺）を同級生の視点から淡々と語っていましたのであり、昭和48年当時の風俗や世相が細かに描かれております。「今の時代ではそんな事ありがちではないか」と思いながら読んでいても小説の書かれた時代を考えると、小説発表当時の世の中の反応がかなり驚いていたというのも納得できるものであります。映画にもなっていたと記憶しています。今年渡辺淳一が亡くなってしまわれ、自分としては何か一冊再読したいと思い選択しました。高校生の頃、受験勉強をしながら読んで、「自分にはこんなこと無かったな…」などと思いながら読んでいたことを懐かしむとともに、渡辺淳一のご冥福をお祈りしております。もう一冊は、素九鬼子の「旅の重さ」（1972）です。この小説は映画化され、自分は高校時代に映画は見たのですが原作は読んでいなかったので、今年初めて読みました。四国を舞台にした家出女子高生の放浪記であります、非常に感性豊かに詩情豊かに描かれており、また思った通りに自分の道を探していく、良くも悪くも女子高生から女に変わっていく心理描写が瑞々しくもありました。映画は、高橋洋子・秋吉久美子のデビュー作であり、岸田今日子や三國連太郎なども出演しており、挿入歌に吉田拓郎の歌が使われるなど、今思うとかなり豪華な布陣であったと思います。（この書籍は絶版ものです。私はamazonにて中古で手に入れました。）この2冊に関しては、若き心を思い出し、少しドキドキしたい方に良いかもしれません。

五番目に、寺山修司の「書を捨てよ、町へ出よう」（1975 角川文庫）です。最近「一部の若い女性の間で寺山修司の事を、再認識する人が出てきている」というニュースを見て、読んでみようという気になりました。自分にとって寺山修司は少し時代がズれる部分と舞台を中心活動していたと言うこともあり、あまりなじみがなかったのですが、高校時代に映画は見ていました。私自身高校時代にはビデオなどなく、映画好きな同級生と3本立て500円などという名画座に結構行っておりました。読んでみて…、中学生時代によく聞いていた深夜放送を思い出しておりました。当時、「オールナイトニッポン1部・2部」「セイ！ヤング」「パックインミュージック」などをよく聞いていておりました。DJとしては、野沢那智&白石冬美、愛川欽也、落合恵子、笑福亭鶴光などなど。世の



中の不満やおかしな点を指摘しあったり、自分の考えを切々と訴えるような、そんな深夜放送に似た印象を受けました。昔深夜放送をよく聞いていた方には、アリかもしません。

六番目には、宮原珠己の「だいたい四国八十八ヶ所」です。これは、いい加減な、でもちょっと真面目な四国遍路の紀行文であります。私はかねてから、今の仕事に終止符を打つたら、家内と一緒に四国八十八ヶ所の巡礼の旅に出たいと思っておりました。まだまだ子供も小さいので先のこととなるのですが、この本を読んでみて、四国遍路のことが少しだけ分かり、肩肘張らずに行けそうだという自信も出来ました。まあ、ガイドブックとしては役に立たないかもしれませんが、「歩き遍路も良いものだな」位の感覚はつかめるかもしれません。「四国遍路旅に行ってみたいが、まだ今ではないな」と言う方、どうぞ。



最後に紹介させて頂く本、これが+1冊なのですが、メアリー・T・ブラウンの「死後の世界からの声（メッセージ）」（1994 同朋舎出版）です。死後の世界云々という本は、星の数ほど出版されております。私がこの本を読んでみようと思ったのは、父が他界した頃、web 上に本の抜粋が掲載されていて、少し興味がわいていたからです。この手の本に対する皆様の反応は、かなり多岐にわたると考え、+1冊とさせて頂きました。眉唾的な印象を持っておりましたが、最初から終わりまでかなり真面目に書かれており、私自身かなり好印象を持ちました。仕事柄「死」に対する意識は常に持っておりますが、「こういった考え方もあるものか」と、再認識させられる部分もありました。「死」という問題に関しては、何が解答か分かりませんが、誰もが一度はその解答を実際に受け取ることが出来る訳です。解答を受け取る前に、いろいろ考えてみるのも良いのかもしれません。その考えが合っていても合っていないなくても、今を生きていくための糧にはなるのではないかと考えております。もし、ご興味があるようでしたら一読されることをお勧めします。（この書籍は絶版ものです。私はamazonにて中古で手に入れました。）



これらの本を、私は全て紙媒体（書籍）にて読みました。タブレットも持っておりますが、やはり読書は紙媒体であり、ページをめくるのも楽しみと考えております。あまり内容に触れてしまうと読んだときにおもしろくないと思い、あえてアウトラインの紹介のみにとどめ、自己的を中心で書かせて頂きました。あまり書籍紹介になっておりませんが、ご興味のある本がありましたら、秋の夜長にページをめくるのも良いものと思います。是非参考にしてみてください。

（異論・反論・その他、あるかと思いますが、一つの意見として読み流して頂けますと、幸いあります。）

連載企画



イラン最高峰・ダマバンド山 (5671m) 登頂

日の出町 神尾 重則

カスピ海と首都テヘランの間に位置するイランの最高峰・ダマバンド山 (5671m) は、美しい裾野を円錐形に広げる成層火山である。「イラン富士」と呼ぶにふさわしい山容は、日本の富士山がそうであるように、イランの人々から愛されている。一昨年の夏、この山を登頂した。

核開発疑惑

イランは今、核開発問題を巡って欧米と激しく対立している。核開発に絡む欧米からの経済制裁に加えて、イスラエルとは一触即発の状況も続いている。イスラム復興主義を掲げるこの国は、まさに激動と混沌の只中にある。

経済制裁によるインフレで、市民生活にも影響が出はじめている。それでもテヘランの人々の表情は暗くはなかった。私たちが訪れたときは、おりしも「非同盟諸国会議」が開催されており、欧米とは一線を画す 100 を超える国と地域が参加していた。会議の模様を伝える現地メディアの報道からは、イランにとって生き残りをかけたアピールの場であることが伝わってきた。

アジ・ダハーカ

ダマバンド山には、アジ・ダハーカと呼ばれる大蛇が眠っている。アジとは蛇の意。古代ペルシャの叙事詩の中で、最も邪惡なる怪物として描かれ、今はこの山に幽閉されているという。日本の大蛇は八つの頭を持つが、イランの大蛇は三つの頭を持っている。こうした蛇を基体とする空想上の怪物の源流を紐解いて行くと、古代メソポタミアにたどり着く。八岐大蛇やアジ・ダハーカは、メソポタミア神話の末裔なのである。



噴煙を上げるダマバンド山 (5671m)

いにしえの人々は、自然の脅威を怪物の仕業と考えた。巨大な津波や洪水、大地の鳴動、火山の爆発など。これらを巨大な怪物になぞらえて、怪物＝敵を治める英雄を憧憬した。叙事詩の寓意は明らかであろう。自然の脅威こそモンスターの正体なのである。ダマバンド山に再び「雲の柱」が立つとき、それはアジ・ダハーカの覚醒するときである。

ゾロアスター教

山麓では「赤いケシ」の花を見つけた。妖艶と清楚を混在させながら、ダマバンド山に対峙して咲く一輪。この紅蓮はハカマオニゲシと見た。とすればアルカロイドを含み、麻薬原料植物に指定されているはずである。ゾロアスター教の拝火壇に揺らめく炎のようで印象に残った。

ゾロアスター教とは、紀元前12～同9世紀頃、中央アジアで成立した世界最古の啓示宗教。古代ペルシャ帝国の国教でもある。天国と地獄、善惡二元論など、その教義は後のキリスト教、仏教などにも大きな影響を及ぼした。日本では拝火教と呼ばれるが、東大寺のお水取り、密教の護摩などの源流ともいわれる。

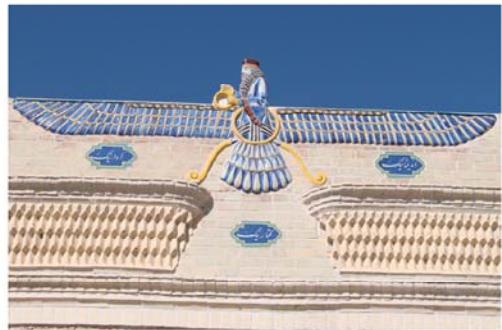
雪しまく山頂

4200mにベースキャンプを設置して山頂を目指した。この標高は高山病発症のクリティカルなポイント。メンバーの一人は激しい頭痛と下痢で停滞を余儀なくされた。

技術的な困難さはないが、さすがアジダハーカの眠る山は侮れなかった。頂上の手前では、雷の襲来が待ちうけており、じっと身を伏せて恐る恐るやり過ごすはめとなつた。また、激しい吹雪に視界を遮られて、噴気孔から噴出する火山ガスの真っただ中に迷い込んでしまつた時は、一瞬ヒヤリとした。喉を襲うガスの刺激から逃れて、這々の体で山頂に到着することになった。

雪しまく大きな岩には、ペルシャ語で書かれたイラン・イラク戦争の犠牲者を追悼するプレートがはめ込まれていた。3人のメンバーと固い握手を交わし、アッラーとゾロアスター教のアフラ・マズダ神に感謝を捧げて、そうそうに山頂をあとにした。

登頂祝いの乾杯はノンアルコールビールであつた。現在のイランは「禁酒国」である。1979年のホメイニ師によるイラン革命以来完全にタブーとなっている。他のイスラム国では、外国人の利用するホテルでの飲酒は可能だが、イランではご法度。滞在中はこのビールでお茶を濁さねばならなかつた。



ゾロアスター教の最高神 アフラ・マズダ
有翼で円盤をもっている

ホルミシス効果

ダマバンド山の北西にカスピ海はわだかまっている。山頂からこの海を望むことはできなかつたが、その沿岸にはラムサールという美しい都市がある。湿地の保存に関する国際条約が結ばれた地として知られているところである。

このラムサールは世界でも有数の高自然放射線地域である。自然放射線量は29.7マイクロシーベルト / 時、260ミリシーベルト / 年にも及び、その原因としては温泉から噴出するラジウムがあげられている。それでもがんの発生率は対照地区と大差なく、人々は普通に暮していると聞いた。

日本における天然ラジウム温泉の代表としては、三朝温泉、玉川温泉などがあげられ、僅かな放射線を長期にわたって被ばくしたときの「ホルミシス効果」=生体防御機構の亢進についての研究もなされている。この仮説の科学的エビデンスは立証されていないが、そこには低線量被ばくの健康への影響を考える上でのヒントが潜んでいるのかも知れない。

シラーズ・ワイン

古代ペルシャ帝国を築いたイラン人は、かつてワインと詩の韻律に酔いしれた。世界遺産のペ

ルセボリスに近いシラーズは「詩人とワインの街」と呼ばれ、革命前は良質のワインの産地であった。これに因んで「シラーズ」の名を冠した品種のワインは多くの国で作られている。

本来のイラン人はワイン好きのはず。人々の本音と建前のギャップを垣間見た。いずれの日にか、再び世界有数のヴィンテージが復活し、「ルバイヤート」を記したオマル・ハイヤームのような詩人が再び生まれるときがくるに違いない。



イラン市民の表情は明るい

第 24 回西多摩消化器疾患カンファレンス抄録

『ピロリ感染胃炎診療のコツ』

杏林大学医学部 第三内科 高橋 信一

2013年2月、*H. pylori* 感染胃炎に対する除菌療法が保険収載されたが、的確な*H. pylori* 感染症の保険診療に関しましてみたい。

1) 保険適用疾患の診断

まず保険適用されている疾患、すなわち、①胃潰瘍、十二指腸潰瘍、②胃 MALT リンパ腫、③特発性血小板減少性紫斑病、④早期胃癌の内視鏡的治療後、⑤胃炎、を診断し、それから*H. pylori* の感染診断となる。さらに、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の診断には胃内視鏡検査または胃 X 線造影検査が、胃炎では胃内視鏡検査による確定診断が保険適用の条件となる。

2) *H. pylori* の感染診断

胃内視鏡検査にて得られる胃粘膜生検材料を用いる迅速ウレアーゼ試験、鏡検法、培養法、また生検材料によらない¹³C-尿素呼気試験(UBT)、便中*H. pylori* 抗原測定、血清および尿中*H. pylori* 抗体測定法があり、それぞれの特徴を良く理解した上で選択する。プロトンポンプ阻害薬(PPI) や一部の粘膜防御系薬剤など*H. pylori* に対し静菌作用を有する薬剤は2週間以上内服を中止後に検査を行う。

3) 一次除菌・二次除菌

一次除菌レジメは、プロトンポンプ阻害薬(PPI) + amoxicillin(AMPC) + clarithromycinを1週間投与する3剤併用療法であり、一次除菌不成功例に対する二次除菌レジメとして、PPI + AMPC + metronidazole(MNZ)による3剤併用療法が保険適用となっている。ここで、三次除菌以降のレジメについては現在各施設で検討中であり、保険も適用されない。

4) 除菌判定の実際

UBTあるいは便中抗原測定法が選択されるが、診断精度を上げるために両法を同時算定することも可能である。また、偽陽性、偽陰性を防ぐため除菌終了後なるべく期間を空けて、できれば6-8週後に行うのが適当である。そして、血清抗体法は除菌成功後もその抗体価の消失に長時間を要するため、除菌判定には用いない。

除菌療法の実際は、日本ヘリコバクター学会ホームページ(<http://www.jshr.jp/>)に詳しく解説されているのでご活用いただきたい。

平成 26 年度西多摩地域脳卒中医療連携症例検討会

日 時：平成 26 年 11 月 26 日（水）午後 6 時～
 場 所：あきる野ルピア 3 階 ルピアホール

1. 開 会

検討会座長 小机 敏昭

2. 挨 拶

西多摩医師会長 玉木 一弘

3. 講 演

A. 座長 公立福生病院 脳神経外科部長 小山 英樹 氏

- (1) 「機能的電気刺激装置「ウォークエイド」を用いた歩行訓練の効果・持続性の検討」
 公立阿伎留医療センター リハビリテーション科 PT 打田 直広 氏

- (2) 「回復期リハビリテーション病棟における生活再設計へのアプローチ
 ～不衛生環境下で生活していた方の退院支援～」
 大久野病院 地域連携課医療福祉相談係 鈴木 望 氏

- (3) 「嚥下障害者へのチーム支援 ～訪問言語聴覚士の役割～」
 梅の園訪問看護ステーション ST 小野塚 久実 氏
 B. 座長 公立阿伎留医療センター 脳神経外科部長 伊藤 宣行 氏

- (4) 「高次脳機能障害患者の情報共有・連携について
 ～失語症・右半球損傷に伴うコミュニケーション障害を呈した症例～」
 青梅市立総合病院 リハビリテーション科 ST 野邑 奈示 氏

- (5) 「老健から在宅への追跡加療により、胃瘻から 3 食経口摂取が可能となった 1 例」
 老人保健施設 菜の花 歯科医 井上 統温 氏

- (6) 「K 子さんの在宅における栄養管理の取り組み」
 あきる台病院指定居宅介護支援事業所 主任ケアマネ 篠原 啓佳 氏
 あきる台病院栄養管理部 管理栄養士 宮本 由紀子 氏
 C. 座長 青梅市立総合病院 神経内科部長 高橋 真冬 氏

- (7) 「転倒の不安を抱える患者への自己効力感を高める関わり」
 公立福生病院 4 西病棟 看護師 大滝 欣子 氏

- (8) 「高次脳機能障害を発症した独居男性の退院調整
 ～本人らしさを取り戻すまでの軌跡～」
 青梅三慶病院 ST 木村 茂 氏

- (9) 「西多摩医師会における在宅医療講座の取り組み」
 西多摩医師会 在宅医療委員会 委員長 進藤 晃 氏

専門医に学ぶ 第109回

問題

【症例】 70代男性

【主訴】 左下腿の壞疽（？）

【既往歴】 病院嫌いで10数年来医療機関を受診したことはない

【生活歴】 詳細不明、車上生活とも言われている

【現病歴】 平成25年11月初め頃から左下腿に壞疽（？）が出現し徐々に増悪しました。歩行困難となり平成26年2月24日前医を受診し、下肢切断の適応と判断され当院整形外科を紹介受診となりました。

【現症】 左下腿全体は周径が66cmと著明に腫脹し、前面から側面・足背にかけて苔癬化し黒褐色の垢が固着していた。下腿後面では個々の皮野が浮腫状となり、皮面より突出しひまん性に敷石状を呈していた。また大量の黄色調の膿が付着しひどく悪臭を放ち部屋中に臭気が充満していた。

【入院時臨床写真】 入院数日後の写真で、連日きれいに洗ったところなので表面の膿はとれ、悪臭も軽減している。（図1A, B）

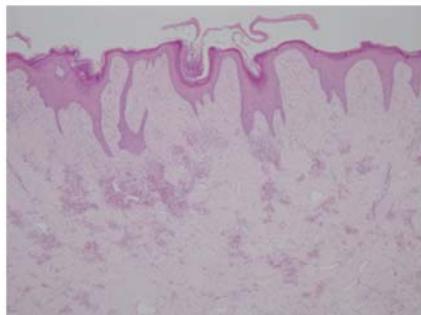


【図1A】

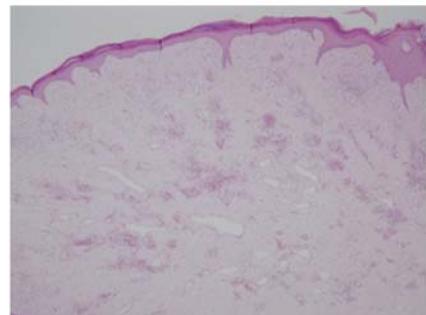


【図1B】

【病理組織学的所見】 表皮は菲薄化し一部厚い角質層が認められる。真皮は浮腫状で拡張したリンパ管、小静脈が多数認められる。（図2A, B）



【図2 A】



【図2 B】

【入院時検査成績】

尿定性・沈渣

比重 1.015 細菌 +- PH6.0 蛋白 1+ 糖 - ケトン体 - 潜血 1+ ウロビリ normal ピリルビン -
亜硝酸塩 - U-WBC3+ 色調 STRAW 混濁 -

白血球 50-99/HPF 赤血球 1-4/HPF 扁平上皮 <1/HPF 尿細管 <1/HPF

血算・血液像

WBC73 10^2/μl RBC441 10^4/μl HGB15.2g/dl HCT44.7% MCV101.4 fl MCH345pg

MCHC34.0% PLT19.3 10^4/μl

Ba%0.7% Neut63.3% Eo%1.5% Ly24.2% Mo10.3% Neut45.9 10^2/μl

APTT24.7 秒 PT103.5% PT 秒 11.7 秒 PT-INR0.98 Fib370.6 mg/dl

血液型 A 血液型 Rh+

生化学

CRP1.10mg/d GLU125mg/dl HbA1c(JDS)5.7% HbA1c(NGSP)6.1% TP7.9g/dl

ALB3.7g/dl T-Bil0.77mg/dl D-Bil0.31mg/dl TTT14.2KU ZTT17.4KU AST18U/l

ALT15U/l LDH164U/l ALP232U/l γ-GTP39U/l CK50U/l T-CHO156mg/dl

UA8.4mg/dl CRE0.65mg/dl BUN6.2mg/dl Na142.7mmol/l K4.37mmol/l Cl106.0mmol/l

Ca8.8mg/dl 乳び (-) 溶血 (-) CHE216U/l eGFR91.8ml/min

感染症検査 隆性

甲状腺機能 問題なし

【画像診断】

腹部・骨盤 C T : 占拠性病変は認められない。

M R A : 総腸骨静脈の狭窄性変化、collateral vein の発達あり。

リンパシンチグラフィー : 所属リンパ節の描出不良、描出遅延が認められた。

【問 題】

- (1) 診断名は何か？
- (2) 治療方針は？

解答と解説

公立福生病院

皮膚科 塩入 瑞恵

診断：リンパ浮腫による象皮症

治療方針：弾性包帯、下肢挙上安静、減量

入院後は循環器内科、血管外科にコンサルトし基礎疾患の有無につき精査を行った。

毎日、炭酸ガスの入った入浴剤で足浴し、石鹼を使いごしごし洗った。

また間食しないように再三にわたり指導し体重減少に努めて頂いた。

弾性ストッキング着用、減量、患肢の清潔を保つて頂き、疣贅状の外觀はきれいになりました。
(図3)

(最初は病棟スタッフとトラブルを起こしていましたが、毎日の入浴タイムを経て徐々に治療に協力的となっていました。患者さんも医療者も根気強くことにあたった成果かなと思っています)



【図3】

リンパ浮腫の鑑別診断**全身性浮腫**

・心性浮腫	・	弁膜疾患、高血圧 心筋症、心筋梗塞 高度の頻脈、徐脈、調律異常 →鬱血性心不全	ポンプ機能の低下 心機能の低下
・腎性浮腫	・	急性腎炎 ネフローゼ症候群 腎不全	
・肝性浮腫	・	肝硬変	
・低蛋白性浮腫			
・内分泌性浮腫	・	甲状腺機能低下症（粘液水腫） Cushing症候群、月経前浮腫	
・薬剤性浮腫	・	ステロイド剤、非ステロイド系消炎鎮痛剤、カルシウム拮抗薬	
・脂肪浮腫			
・特発性浮腫			

局所性浮腫

・静脈性浮腫	・	深部静脈血栓症 慢性静脈機能不全	
・リンパ浮腫			
・中毒、アレルギー、炎症性浮腫			
・血管性浮腫（Quincke浮腫）、遺伝性血管性浮腫など			

● 理事会報告

★ Information

9月定例理事会

平成26年9月9日(火)

西多摩医師会館

[出席者:玉木・鹿児島・江本・奥村・小林・朱膳寺・土田・馬場・古川・松山・宮城・中野・横田]

【1】報告事項

(1) 各部報告

- ・会長 都医等からのデング熱に係る情報を取りまとめ発出した件について
9月4日に開催された多摩医学会役員会の内容等について資料により報告
- ・総務部 9月6日 福生病院において開催された「糖尿病教室 in 福生・羽村・瑞穂」の状況等について
- ・公衆衛生部 8月2日 青梅市立病院で開催された「産業医研修会」の状況等について
8月27日 東京都医師会で開催された「新たな難病対策に関する担当理事会」の内容について追加資料により報告
- ・学術部 8月28日に学術部会を開催、決定された「市民健康講座」・「症例検討会」・「パネルディスカッション」の開催日等について
- ・学校医部 8月29日に学校医部会を開催、27年1月22日に予定している「西多摩学校保健連絡協議会」での講師等の決定について
- ・地域医療部 8月1日に開催された「認知症疾患医療・介護連携協議会」について

(2) 地区会報告（各地区理事）

青梅市 8月31日青梅市の防災訓練に参加

福生市

羽村市

あきる野市 9月8日例会開催、青梅市立病院の野口先生を講師に迎え、がん検診に係る勉強会を実施

瑞穂町 9月29日 腎臓病に係る講演会を開催予定

日の出町

(3) その他報告

- 東京都医師会第10回産業保健委員会(7月24日 蓼沼 翼 委員)
 - 東京都医師会第9回地域福祉委員会(7月24日 進藤 晃 委員)
 - 東京都医師会第11回救急委員会(7月28日 小山 英樹 委員)
 - 上記委員会につき委員より提出された資料により内容等が確認された
- 〈追加〉 ○ 100周年記念誌編集委員会(鹿児島 委員長)
記念誌の完成と会員への配布の開始等について

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により標記について紹介され、準会員2名の入会が承認された。

- (2) 「西多摩医師会分掌表」について（継続） — 承認 —
各部の部員がすべて確定したことが説明され承認された
災害医療対策委員会の委員のうち、地区長の変更があった羽村・日の出及び地区長代理が
委員となっているあきる野それぞれの委員について各地区で確認することとした
- (3) 「CAB + B カード」について — 承認 —
標記のカードについては4千枚を受領しており、2千枚は会員医療機関へ配布済の報告残
りの2千枚について、当会が主催又は参加する市民講座等で参加者へ配布することが提
案され承認された
- (4) 平成26年度 うつ等精神疾患早期発見・早期対応研修事業の実施について（うつ診療充
実強化研修 / 精神疾患早期発見・早期対応推進研修）
— 標記については協議事項4で検討協議することとした —
- (5) 平成26年度高齢者インフルエンザ予防接種事業について（要望） — 承認 —
資料により、西多摩地域保健衛生担当課長会（幹事 青梅市・瑞穂町）からの要望が説明
され対応について検討
過去の経緯、実績と同様、要望金額+30円での交渉が提案され承認された

【3】協議事項

- (1) 歯科保健推進基盤整備検討会への出席者推薦のお願いについて — 可決承認 —
資料により標記の依頼内容が説明され、会長自ら出席の意思表示があり玉木一弘会長を推
薦することが可決された
- (2) 設備機器の更新について（複写機及びプロジェクター） — 可決承認 —
資料により各社の見積もり・提案機種等が説明紹介され協議された結果、複写機については
は、出力速度、印刷単価等総合的に検討され「リコー C6502SP」の導入が決定された。
但し、基本料金（最少印刷料金）がキャノンと大きな差があることから内容及び同等程度
となるかを確認し、結果を担当理事に報告の上、了承を得て契約のことプロジェクターに
ついても、価格・機能・リースの可否等総合的に検討され「エプソン EB-1965 及び EB-
X24 に無線 LAN ユニット付」のリースによる導入が決定された
- (3) 地域産業保健センター事業受託について（事業を新町クリニックへ委託、センター長へ
の会長派遣承認等） — 可決承認 —
26年4月に都医を通じ東京都産業保健推進センターに前会長をセンター長として推薦し
ていたが、会長が交代したことから、推薦者の変更及びセンター長として会長を派遣する
ことについて機関決定することが提唱され可決承認された
- (4) 国三研修（介護保険主治医研修会、うつ研修、社会保険に関する研修）の年度内実施に
について — 可決承認 —
会長より、標記の研修に係る説明の後、介護保険主治医研修会については玉木会長・進藤
晃先生、うつ研修については中野和広先生を主体として、今年度中での研修実施が提唱さ
れ、社会保険に関する研修についても実施を目指すこととされ了承された。

【4】その他

○総務部

- ・11月15日の「多摩地区医師会懇話会」の開催に向けた準備等の概要・進捗状況について説明報告された
- ・9月の第2回理事会が23日（第4火曜日）が休日のため、9月30日の開催としたことについて確認

9月定例理事会**平成26年9月30日(火)****西多摩医師会館**

〔出席者：玉木・鹿児島・江本・奥村・小林・朱膳寺・土田・馬場・古川・松山・宮城・中野・横田〕

【1】 報告事項**(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告**

- ・資料に沿って都医からの伝達事項等会議の内容について紹介報告された
- ・伝達事項 1-7 「26年度第2回東京JMAT研修会」へは会長が参加する旨表明された

(2) 各部報告

- ・総務部 9月10日より会館に設置したソーラー発電システムが稼働

(3) 地区会報告（各地区理事）

青梅市

福生市 10/1 より高齢者肺炎球菌ワクチンの接種開始

9/25 青梅総合病院の野口先生によるがん検診に係る勉強会実施

羽村市 9/11 例会開催、青梅総合病院の野口先生によるがん検診に係る勉強会実施
あきる野市

瑞穂町 10/1 より高齢者肺炎球菌ワクチンの接種開始

9/29 に開催された腎臓病に係る講演会の状況について

日の出町 10/1 より高齢者肺炎球菌ワクチンの接種開始

(4) その他報告

- 東京都医師会第12回救急委員会（9月22日 小山 英樹 委員）
 - 東京都医師会第10回地域福祉委員会（9月25日 進藤 晃 委員）
 - 東京都医師会第11回産業保健委員会（9月25日 蓼沼 翼 委員）
- 上記委員会につき委員より提出された資料により内容等が確認された

【2】 報告承認事項**(1) 入退会会員、会員異動について**

— 承認 —

資料により準会員の退会者1名、その他は該当がないことが報告された。

(2) 「忘年クリスマス会」・「新年賀詞交歓会」・「西多摩地区医療懇話会」の開催日程及び開催場所について — 承認 —

クリスマス会；12月3日（水）フォレストイン昭和館（12月第1水曜日）

賀詞交歓会；1月17日（土）青梅スイートプラム（1月第3土曜日）

西多摩地区医療懇話会；2月7日（土）フォレストイン昭和館「車屋」（2月第1土曜日）

総務部より、標記行事につき恒例となっている上記日程・場所にての実施予定が報告され、承認された

【3】協議事項

(1) 平成 26 年度「インフルエンザ個別予防接種業務委託契約書」の締結について

— 可決承認 —

資料として西多摩地区 8 市町村との標記契約書ひな形が示され、前年度との相違点等が紹介・説明された。

特に問題となる事項はなく、契約締結について可決承認された。

(2) 腎臓病市民公開講座（仮）の後援名義使用許可願い — 可決承認 —

資料により標記の依頼事項等の説明の後、後援名義付与について問題点の有無等が検討された。

特に問題となる事項はなく、後援名義使用を許可することが可決承認された。

【4】その他

○ 「多摩懇」運営準備チームより、計画・準備等の進捗状況について報告された



◇学術講演会予定

26. 10. 24

開催日	開始～終了時間 開催時間	会場	単位数	カリキュラムコード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
11.19 (水)	19:30 ～ 21:15	青梅市立 総合病院 南棟 3階講堂	1.5	2,42,44	第 29 回西多摩心臓病研究会 【特別講演】 「薬物動態を加味した循環器薬の さじ加減」	東京女子医科大学 循環器内科 准教授 志賀 剛 先生
11.26 (水)	19:30 ～ 21:10	青梅市立 総合病院 3階セミナー室	1.5	25,40,73	学術講演会 【一般演題】 「当院での抗凝固薬使用の実際 (仮)」 【学術講演】 「血液凝固から考えた各新規抗凝 固薬の特徴 (仮)」	梅郷診療所 江本 浩 先生 帝京大学 医学部 内科学講座 教授 川杉 和夫 先生
12.4 (木)	19:10 ～ 21:10	フォレスト イン昭和館 「アトロソシ」	2	2,22,73, 76	学術講演会 演題：「SGLT2 阻害薬の適正使用 について (案)」 演題：「DPP 4 阻害薬の最適な使 用法の検討 (案)」	杏林大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・代謝内科 講師 保坂 利男 先生 横浜市立大学 分子内分泌・ 糖尿病内科学教室 教授・診療科部長 寺内 康夫 先生
12.8 (月)	19:30 ～ 21:10	公立福生病 院1階 多目的ホール	1.5	13,14,44	学術講演会 第 1 回認知症地域連携会 講演 1：地域包括からみたサポー ト医とかかりつけ医の役割 講演 2：パーキンソン病とレビー 小体型認知症 (仮)	福生クリニック 理事長 玉木一弘 先生 菜の花クリニック 佐藤 猛 先生

会員通知

- 会報9-10月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 青梅市立総合病院退院支援強化研修（平成26年度東京都モデル事業）地域と共同で取組む「在宅療養への移行支援」
- 厚生労働省「持分なし医療法人への移行促進策のご案内
- Dengue熱に関する情報 西多摩医師会発 第一報・第二報・第三報・第四報
- 産業医研修会（10/11～3/22 7日間日本医科大学医師会）
 - 〃 (11/1 城北ブロック)
 - 〃 (12/9 中野区医師会)
 - 〃 (12/13 東京都医師会)
- 乳がん検診従事者講習会のお知らせ(10/24)
- NPO法人西東京臨床糖尿病研究会学術評議員会主催第8回特別講演(11/22)
- 第2回・第3回医療従事者肝疾患研修会(9/23・11/3)
- 訪問看護フェスティバル(1/10)
- エボラ出血熱疑い患者が発生した場合の標準的対応フォロー
- 平成26年度「医療関係機関等を対象にした特別管理産業廃棄物管理責任者」に関する講習会
- 新たな難病医療費助成制度における指定医の申請手続きについて
- 平成26年度第1回がん検診受託機関講習会(10/30)
- 第1回医療情報の理解促進に関する研修会(10/9)
- 海外渡航予防接種推進事業（トラベラーズワクチンフォーラム研修会）の周知について(9/27)
- 東京都医師会雑誌平成27年1月号（新春隨想集）について
- 平成26年度外国人未払い医療費補てん事業のご案内
- 日本対がん協会ポスター
- 新たな小児科慢性特定疾病医療費助成制度における指定医療機関について

- 「2015年版医師日記」（手帳）の斡旋について
- 水痘及び高齢者肺炎球菌に関するQ&A等について
- 「予防接種法、第5条第1項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について
- 平成27年用「駐車禁止等除外標章（緊急往診車用）」の新規申請について
- キッズホスピタルランド(2/23)
- やっぱり看護が好き
- 東京都医療勤務環境改善支援センター開設に伴う平成26年度支援希望医療機関の募集について
- 阿伎留医療センター医局講演会(9/29)
- 東京都肝疾患診療連携拠点病院が実施する研修のご案内
- 難病指定医の指定申請手続きについて
- 東京都医師会平成26年度第3回学校保健（学校医）研修会
- 東京都自殺未遂支援研修
- 学術講演会(10/17・10/29・10/30・11/5)
- 食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額の一部改正について
- 管内市町村国保担当主務者との懇談会開催について(10/20)
- 第18回青梅呼吸器懇話会(10/7)
- 第71回青梅糖尿病内分泌研究会(10/15)
- 訃報（川辺隆道先生奥様）
- ゴルフ部コンペのご案内
- 公立福生病院症例発表講演会(11/10)
- 平成26年度東京都医師会糖尿病予防推進講習会（基礎編）
- 第90回多摩医学会抄録(11/8)
- COPD対策講演会(11/19)
- 「道路交通法に基づく一定の症状を呈する病気等にある者を診断した医師から公安委員会への任意の届出ガイドライン」等の送付について
- 捜査関係事項照会書
- 平成26年度第4回専門研修（児童虐待対応）開催のお知らせ(12/4)
- 医師・医療スタッフ向け研修講座「糖尿病診療－最新動向」(10/19・11/23)

- 血糖値が高いとどうなる？(パンフレット)
- 平成26年度東京都自殺未遂者支援研修
- 日本医師会市民公開フォーラム（10/11）
- 知ってください 療育家庭（里親）のこと
ポスター
- 「糖尿病と糖尿病予備軍のための講演会」
in 青梅・奥多摩
- 11月のレセプト提出について
- 新たな難病医療助成制度の中請に必要な診
断書のご案内

- 第29回西多摩心臓病研究会演題募集のご
案内
- 平成26年度日本医師会医療事故防止研修
会
- 腰痛予防対策講習会
- 産業医研修会
- 平成26年度東京都立学校産業医研修会(第
2回)

医師会の動き

平成26年10月24日現在

医療機関数	200	病院	30
		医院・診療所	170
会員数	537	正会員	209
		準会員	328

会議

- 9月9日 定例理事会
- 11日 第2回西多摩糖尿病地域連携検討会
- 30日 定例理事会
- 30日 第2回西多摩脳卒中地域連携検討会
- 10月14日 定例理事会
- 20日 市町村国保担当手主務者との懇談会
- 24日 広報部会
- 28日 定例理事会

講演会・その他

- 9月2日 第3回 在宅医療講座
在宅神経難病
1.在宅で必要な薬剤
2.症例検討
3.在宅で診る 神経難病の診かた
- 6日 糖尿病教室in福生・羽村・瑞穂
「糖尿病と糖尿病予備群のための
講演会」
- 8日 保険整備委員会
- 8日 学術講演会
－ SGLT2阻害薬の適正使用を考

える－

【特別講演Ⅰ】

「SGLT2阻害薬の使用経験から考
える～アンケートの結果から」

演者：高村内科クリニック

東京医科大学 名誉教授

植木 彰夫 先生

【特別講演Ⅱ】

「グルカゴンと体重管理に注目し
た糖尿病治療戦略」

演者：群馬大学 生体調節研究所
教授

代謝シグナル研究展開セン
ター長 北村 忠弘 先生

10日 学術講演会

【一般講演】

演題：「糖尿病治療薬におけるテ
ネリアの位置付け」

演者：柳田医院 院長

柳田 和弘 先生

【特別講演】

演題：「糖尿病治療の新たなる展
開」

－ DPP-4阻害薬、SGLT2阻害
薬をいかに使いこなすか？－

演者：東京慈恵会医科大学附属
第三病院 糖尿病・代謝・
内分泌内科

診療部長 森 豊 先生

18日 法律相談

18日 学術講演会

- 講演① 「実地医家におけるアピキサバンの処方経験」
—より安全に使用するため
凝固検査の活用法—
演者：(医社) 永寿会 三鷹中央病院 循環器内科
部長 上ノ畠 真先生
- 講演② 「心房細動の病態と治療」
—新規抗凝固薬の使い分けを考える—
演者：日本医科大学内科学 (循環器内科学)
主任教授 清水 渉先生
- 25日 糖尿病教室
- 10月8日 保険整備委員会
- 16日 法律相談
- 17日 学術講演会
抗凝固療法を考える会
【特別講演】
演題：「これでわかる！抗凝固薬の使い方と使い分け」
演者：東邦大学医学部 内科学講座 循環器内科学分野
教授 池田 隆徳先生
【アナライザーを使用したQ & Aセッション】
～適切な抗凝固療法の普及に向けて～
◆抗凝固療法の現状
◆NOAC導入時の指標/用量選択
◆血液凝固モニタリング
◆服薬コンプライアンス
コメントーター
公立阿伎留医療センター
循環器内科 科長 松永 洋一先生
波多野医院 波多野嗣久先生
- 18日 市民健康講座
演題：「脈の異常に気づいたら…
～命に関わる危険な不整脈とは～」
演者：青梅市立総合病院
副院長 循環器内科
大友 建一郎先生
- 23日 糖尿病教室

- 27日 学術講演会
演題：「耳鼻咽喉科領域の重篤な感染症について」
演者：埼玉医科大学 総合医療センター 耳鼻咽喉科
教授 菊地 茂先生
- 29日 学術講演会
【講演①】
演題：「アブレーション周術期でのエリキュース使用経験」
演者：青梅市立総合病院 循環器内科 医長 大坂 友希先生
【講演②】
演題：「変わった！超高齢社会における抗血栓療法～アピキサバンへの期待～」
演者：国家公務員共済組合連合会立川病院
院長 三田村 秀雄先生
- 30日 学術講演会
演題：「C型肝炎治療の新たなステージ」
～経口抗ウイルス薬による画期的な治療の登場～
演者：青梅市立総合病院
診療局長 消化器内科
野口 修先生
- 31日 糖尿病セミナー
「目からうろこの糖尿病セミナー
—今更聞けない悩みも解決—
- 役員出張**
- 9月4日 多摩医学会役員会
- 7日 東京都医師会在宅療養地域リーダー研修
- 19日 生活保護法指定医療機関指導立会
- 19日 東京都医師会地区医師会長連絡協議会
- 19日 多摩ブロック 会長・副会長連絡協議会
- 10月2日 東京都医師会精神保健担当理事連絡会
- 3日 在宅難病調整委員会
- 10日 西多摩三師会役員会

12日 東京JMAT研修会
 17日 東京都医師会地区医師会長連絡協議会
 30日 西多摩三師会役員会

【入会会員】(準会員)

氏名 中安 弘毅
 勤務先 公立阿伎留医療センター
 出身校大学 獨協医科大学 平成18年3月卒

氏名 石川 淳一
 勤務先 公立阿伎留医療センター
 出身校大学 愛知医科大学 平成21年3月卒

氏名 西島 豊
 勤務先 (医社) 仁成会 高木病院
 出身校大学 関西医科大学 平成14年3月卒

氏名 柳澤 正彦
 勤務先 公立阿伎留医療センター
 出身校大学 日本大学 平成21年3月卒

氏名 神應 知道
 勤務先 新町クリニック
 出身校大学 北里大学 平成12年3月卒

【退会会員】(準会員)

氏名 浅井 聖子
 勤務先 公立福生病院

氏名 荒澤 蘭子
 勤務先 公立福生病院

氏名 瀬井 一生
 勤務先 (医社) 三秀会 羽村三慶病院

氏名 伊東 真知子
 勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 堀 智志
 勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 江口 純子
 勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 西島 豊
 勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 真鍋 歩
 勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 佐瀬 輝夫
 勤務先 (医財) 良心会 青梅成木台病院

【医療機関住所変更】

ホームケアクリニック青梅
 (新) 青梅市新町2-21-12
 (旧) 青梅市新町5-31-11

大堀医院
 (新) 青梅市今井5-2440-178
 (旧) 青梅市今井5-2440-159

【法人化・開設者・代表者変更】

(新) (医社) 長生会 小曾木診療所
 理事長 林 明伸
 (旧) 小曾木診療所 若林 茂

訃報**川邊 保子 様 (享年69歳)**

奥多摩町氷川177
 川辺医院

川辺 隆道 先生(奥様)

去る平成26年10月5日 ご逝去されました。
 謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

表紙のことば**『富士とコスモス』**

世界遺産となって色々話題の多い富士山ですが、その初冠雪とコスモスはいつもながら絵になりますね。

真鍋 勉

お知らせ

事務局より お知らせ

保険請求書類提出

平成26年12月（11月診療分）

12月8日（月） 正午迄

平成27年1月（12月診療分）

1月8日（木） 正午迄

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を

毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。

お気軽にご相談ください。

◎相談日 **11月20日（木）**

12月18日（木）

1月15日（木）

◎場 所 西多摩医師会館

◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。

◎相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）

◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。

（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

あとがき



青色発光ダイオードの開発成功で作れなかった色の発色が可能になり、LEDが人々の暮らしに莫大な利益をもたらしたこの発明は正にノーベル賞に値する発見なのでしょう。ある朝テレビをつけているとニュースで何か見たことのある初老の男性が「ディス イズ ア バナ～ナ～」と声高らかに歌っている。左手にバナナのぬいぐるみ、右手には肘の骨格の模型。体を揺らしながら、「バナナの皮の滑りやすさは、関節の滑りやすさと似ているんだ」と陽気に英語で歌い上げた。ノーベル賞のパロディー版、イグノーベル賞を受賞した北里大学医療衛生学部医療工学科、馬渕清資教授であった。バナナの皮を踏んだ時は普通に床の上で滑るより6倍滑りやすいということを突

き止めた研究。正に暮らしに全然役に立ちそうもない研究である。ユーモアいっぱいなこの受賞者は昭和50年代から整形外科とタッグを組み人工関節の研究開発に力を注いでおり、当時は医学部に生体工学の研究室が置かれていること自体が珍しかったのですが、東京工業大学出身の優秀な若手研究者が数名来られました。その中から馬渕先生が教授になりました。私自身もその研究室で色々と実験の手解きをいただいて、学位論文を書き上げる事が出来ました。教授は幾分老けてはいましたが、キャラクターは昔のままで朝から笑わせていただきました。人類の進歩の為に地道な基礎研究に明け暮れている日本の研究者が、来年も数多くの賞賛を受けることを心から願いたいと思います。

ワタナベ整形外科 渡邊哲哉

医師会館休館のお知らせ

年末・年始 事務局は下記の通り休館いたします。

記

12月27日(土)～1月4日(日)まで

(通常業務は26日(金)正午までとさせていただきます。なお1月5日(月)より平常通りとなります。)

社団法人 西多摩医師会

平成26年11月1日発行

会長 玉木一弘 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 古川 朋靖

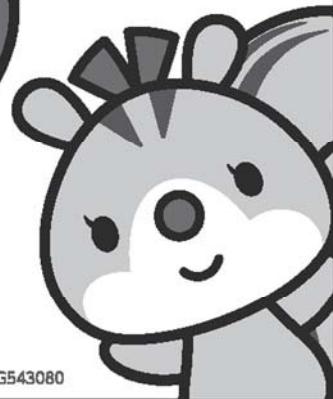
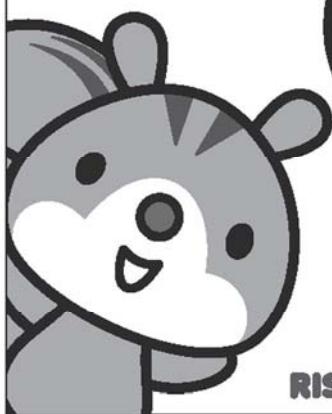
土田 大介 鹿児島武志 奥村 充 神尾 重則 近藤 之暢

菊池 孝 進藤 幸雄 渡邊 哲哉 松崎 潤 松本 学

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

この街が好き 多摩が好き

こころでつなげる
こころがつながる



RISURU

©2003,2014 SANRIO CO.,LTD APPROVAL NO. G543080



多摩信用金庫

[SIMPLE] × [SPEEDY]



日々の診療を支える 電子カルテ、「クオリス」。



＜製品の特徴＞

- わかりやすい・操作しやすい画面レイアウト
- 診療アラーム機能搭載
- 使いやすい
- 外注検査のオンライン（指定検査会社）
- 安心のサポート体制、セキュリティ構成



株式会社**ビー・エム・エル**
インフォメーションセンター
TEL: 049-232-0111

健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて…
(株)武藏臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・S サービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659

